

KSKQ バオバブネットワーク通信

VOL25

**新型コロナウイルス緊急募金
ご協力ありがとうございます
ございます！！**

一九九一年九月三日 第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日) 発行

社会福祉法人バオバブ福祉会えるで

えるで Online

～ 障がいのある人もない人も共に地域でいきいきと ～

みんなの 私たちの
えるで NEWS

Vol.2

一人ひとりが主役となり、地域でいきいきと生活するために！



心も身体もリフレッシュ！

季節を楽しむ



えるでは、定期的にリフレッシュ外出を行い、メンバーさんの気分転換になるような活動を行っています。二上山にハイキングに出かけたり、地域でイチゴ狩りしたりなど、外出先は季節や気候に応じて多岐にわたります。コロナの影響により、様々な配慮が必要となりますが、季節を感じたり、心安らぐひとときを過ごすことができたらと思います。

えるで☆支援事例紹介コーナー☆

～見通しがあることで、安心して待つことができる～

普段私たちが使っている何気ないセリフに「ちょっと待って！」という言葉はないでしょうか？障がいのある方の中には、この「待って」という意味で、抽象的な言葉が『どれくらい待てばいいの？』見通しがもてず不安になり、結果、一刻も早く欲しいという思いが強くなり行動として表れる方もおられます。

そこで、えるでは、そのようなニーズのある方に対して、ご本人にとって理解しやすいかたちで「これくらい待ってくださいね」ということを、具体的にタイマーなどで示す支援を行っています。

目で見て、具体的な見通しがもてることで、安心して、落ち着いて待つことができる。日常生活のなかでは、些細なことかもしれませんが、えるでのメンバーさんが、地域で安心した生活を送るために、そのような細かなニーズに気づき、ひとつひとつ丁寧に支援していけたらと思います。



第2えるで Online

～ともに地域で生きることをめざして～ 社会福祉法人バオバブ福祉会

6月号

ようやく緊急事態宣言が解除され、みんなで外の空気を吸いに行こうと、休日開所日(6/6土)に堺の大仙公園に行ってきました。久しぶりの戸外の活動で気分上々↑の楽しい一日となりました。



ともに地域で いきいきと生活することの実現を

コロナ感染症を乗り越え、メンバーの「あたりまえの生活」を支援する募金にご支援・ご協力ありがとうございます。

2020年5月7日付けの突然の呼びかけにもかかわらず、みなさまから総額6,203,400円のご寄付を頂きました。(7月10日現在)

呼びかけ人一同、改めてバオバブのメンバーを支えてくださる地域の支援者の「ぬくもり」に感動し、気を引き締めてコロナ感染症の蔓延にたたかっていきたいと決意しています。

皆様のお気持ちを裏切ることなく、メンバー全員の健康と生活の保障に基金を活用していきたいと考えています。具体的には、

- 1, 感染症対策ための備品(マスク・フェイスガード・防菌ガウン
消毒液・飛散防止シート等)の購入費
電子体温計・パルスオキシメーター・吸入器等の機器購入
- 2, 送迎時の「三密」を避けるため、送迎車両(中古)の購入
メンバーの休養できるスペース確保のための、間仕切りパネルの購入
- 3, メンバーのよりよき生活のための「活動」への支援金
八月以降の行事への補助金

として活用することを法人機関会議で決定しています。残金については、法人の自己資金と併せて、第二次感染が発生し、休業等に追いこまれた場合の緊急資金として活用したいと考えています。

言い換えれば、法人の運営費や債務の返済には使わないことも確認しています。

今も、外部の人の立ち入りの自粛をお願いして続けています。一方で、メンバーの気持ちやストレスに配慮し、全体としてバランスのとれた活動を創意工夫をしながら創造的な活動を展開していることもご報告させていただきます。

7月に入り、新規感染者の増加がみられ「第二次感染」という警告今も出ている状況ですが、支援者・職員及びファミリーが一致して、メンバーの健康と生活を守っていくことがお誓いして、お礼の言葉に代えさせていただきます。

2020年7月10日

社会福祉法人バオバブ福祉会
理事長 房 本 晃
バオバブ福祉会 ファミリー会 義 川 登志子
バオバブ福祉会 後援会 井 上 雅彦

【2020年度緊急募金にご協力者ご芳名】

募金にご協力ありがとうございました。心より感謝申し上げます。

163件 6,203,400円

(順不同・敬称略)

2020.7.10現在

氏名	氏名	氏名	氏名
土屋 敏明	姫野 春奈	高松 一仁(佳子)	長尾 由利
房本 ひろみ	梶原 芳美	上田 孝子	菅野 謙二
寺内 勉	河野 雅子	えるで応援隊	猪俣 圭介
三田 宜充	伊津 エミ子	檜本 直之	池田 幸子
松井 真由美	合同会社トミカル 代表社員 浦大介	高橋 和男	京井 節子
山本 純子	川渕 兼敏	桑原 加代子	木南 康昭
土屋 敏明	岩橋 由理子	福西 洋美	佐藤 春男
花澤 光正	江頭 直幸	松本 博美	和田 芳現
里上 龍平	隅埜 千昌	阪本敏彦(幸)	楠本 良栄
森 俊雄	玉木 昇	関 光雄	大廻 敏子
北川 和子	明石 全弘	泉 富三男	房本 卓也
上間 正彦	山口 道彦(昌子)	諸角 裕久	佐藤 実希
菅原 眞理	泉森 一喜	小林 和子	津之下 麻衣子
森山 伸治	新里 順一	林 和広	吉田 千晶
坂本 宏和	中村 勝成	永尾 廣幸	杉谷 美弥子
白樺 雅洋	黒岡 一仁	中庭 哲史	谷口 眞
平尾 貞之	桑原 加代子	山添 繁	道野 真紀
明石 一朗	瀧見 忠和・葉子	松村 公子	是枝 英恵
海堀 聰	隅田 正樹	大塚 潔	寺内 勉
北田 茂	(株)木本デザイン設計室 木本圭二	市橋 剛	中島 智子
徳田 喜代士	坂井 龍	上野 史雄	山田 和寛
須川 芳二	盛田 隆子	森口 己史	齋藤 宏美
石田 勝也	星野 稔	吉川 年幸	安田 智昭
熱田 光子	古川 知子	房本 朋也	房本 晃
谷岡司法書士事務所 谷岡康男	井上 雅彦	吉田 裕子	豊永 雅雄
斎藤 薫	山森 篤	徳山 孝	村田 昇
玉岡明代	床本 スミエ	新里 京子	望月 育朗・ミサ子・未生
岡 陽子(修)	池本 武夫	山本 啓子	小西 典子
藤本 幸子	津田 仁	山本 博	佐藤 博人
井上 恵子	梅沢 隆志	西田 恒次	三條場 進
竹本 信夫	竹中 隆男	岡林 美紀	片岡 信行
大江 進	佐伯 ゆり子	(株)西山金物店	杉谷 美弥子
南 光子	杉田 たまき	岡村 正毅(知栄子)	竹本 雅樹
前崎 卓	セブンイレブン 松原田井城店	田中 繁	李 貴美
高橋 正人(啓子)	橋本 由美	野崎 龍介	匿名希望
上杉 健二	本田 剛	横田 真一	瀧澤 公子
北本 正俊	中島 智子	植田 麗子	パオバブファミリー
橋本 幸一	芝野 昌代	長畑 友貴	池本整骨院
金川 増美	小路 君代	小路 幸三	近藤 欽一
山岡 浩美	鎌田 昌禧	幸 隆之	山崎 正一
義川 登志子	美佐田 和之	田中 利明	



えるで



メンバーは元気です!! (。・)!!

新型コロナへの対策をとりながら、様々な活動に取り組んでいます

リフレッシュ外出

午後の活動で近くの公園や河川敷を散策、休日開所日には、少し足を伸ばし郊外まで森林浴などに出かけたりと、定期的に外出し、環境を変えることでメンバーの心のケアになるよう「リフレッシュ外出」を取り入れています。

4月

今池みらい公園(花見)



5月

今池みらい公園(つつじ祭り)



リフレッシュ外出

5月

いちご持ち



ライフスキルアップ活動

「ライフスキルアップ活動」では、一人ひとりの持っている力を発揮出来るよう個別のニーズに合わせた課題に取り組んでいます。また、健康・体力維持のために運動プログラムにも力を入れています。

個別課題



運動プログラム



えるでからのお知らせ

布マスクの制作・販売を行っています！

メンバーが1つ1つ心を込めて、手作りをしております。ご希望の方は、お気軽にお問い合わせください。尚、ご注文からお渡しまで、少し日数を頂いています。ご理解いただけますと幸いです。 ☎0720332-0987 箕輪



パオバブ福祉会



みんな集まれ～ 第2えるでだよ



地域の皆様、ボランティアの皆様のお力添えにより、今年4年目を迎えた第2えるで。

現在17名のメンバーさんが元気に活動しています。一人一人に寄り添い、みんなが笑顔ですごせる場でありたいと思います。



第2えるでの活動紹介



音楽・たいそうプログラム

音楽&たいそうプログラムでは、楽しく体を動かす事をめざしておこなっています。運動はちょっと苦手・・・というメンバーさんも自分の好きな音楽でノリノリでダンスしています♪

おいしい給食の時間。今日のメニューは何か？
みんな献立のチェックに余念がありません。



給食



地域と共に。



散歩・外出



アルミ缶回収

天気の良い日はお出かけする！と、みんな外に出かける事が大好きです。毎日、公園などに散歩にでかけています。

また、地域の方々にご協力いただき、アルミ缶の回収も行っています。「がんばってるな！」とご近所の方が声をかけてくれることも多く、メンバーさんの励みとなっています。

一人一人のニーズに寄り添った個別支援



足浴



入浴支援



ライフスキルアップ



筋トレ・ストレッチ



デイ活動・余暇活動

メンバーそれぞれが楽しんで取り組めるように、様々な余暇活動を行っています。中でもボランティアさんによる紙芝居や河内音頭・太鼓は大盛り上がりです！



カラオケ



河内音頭・太鼓



紙芝居



創作



クッキング

法人本部コーナー

6月2日、社会福祉法人パオバブ福祉会第86回理事会が開催され、下記の議案が承認されました。次の6項目が承認されました。

- 1, 2019年度パオバブ福祉会事業報告及び2019年度全体方針及び各事業所方針
- 2, 2019年度パオバブ福祉会決算報告及び承認
- 3, パオバブ福祉会定款変更についての承認
- 4, パオバブ福祉会役員報酬規定変更について
- 5, 就労支援事業について
- 6, 35周年記念行事実行委員会からの寄付行為について

このコーナーでは、1の法人全体方針、2, 2019年度決算報告についてみなさまにお知らせします。

2020年度全体方針は次の通りです

1, はじめに

コロナウィルス感染症拡大と闘い、法人の資源を「選択」と「集中」により課題解決を図るために、本年度は、次の5点を提案したい。

- I 「障がいの重度化・メンバーの高齢化」が現実になってきている「事実」を直視し、法人全体の「支援のあり方」を抜本的に見直す。
- II 法人の根本理念である「障害のある人」から「固有のニーズ」のある人への転換を図る事を保障できる支援内容を創造する。（すべての法人関係者で、生活介護事業所のあり方を転換する。）
- III 相談機関である「いこな」の増員を契機に、「計画相談のサービス等利用計画」「個別支援計画」「アセスメント」「モニタリング」の機能を法人全体で強化し、「メンバーの生活は一つ」を合言葉に、全事業所で支援に取り組む。
- IV ホーム「空」がメンバーの「終の住処」となるように、ファミリー会と協議の上、医療との連携を根本的に見直し、ターミナルケア体制を確立の準備をはじめ、一定の体制を確立する。
そのために、本年度、4月から具体的な目標を設定し、関係機関等と連携を図りたい。（4月から、K・Oさんの訪問看護から出発し、連携を深めるはずであったが？）
- V 本格的な人事異動を推進し、各事業所間の交流をすすめる、新規事業を全職員の参画により推進する。
- VI コロナ感染症蔓延に抗して、法人にコロナ対策基金をつくりメンバーと職員を感染から守る。生命の選別につながる医療機関のトリアージュ等には、断固反対し、メンバーの医療を保障する。

2, 重点課題

- 1) 「障がいの重度化・メンバーの高齢化」が現実になってきている「事実」を直視し、法人全体の「支援のあり方」を抜本的に見直す。
 - ・メンバーの健康管理を最優先課題として、連携医療機関や看護師とともに、医療連携における質の向上を図る。
 - ・日中の活動で、健康増進・リハビリ機能を有する活動（余暇活動）を多く取り入れる。そのために、えるで、第2えるでの施設改造や小部屋等の設置をすすめる。
 - ・地域の協力を得て、地域資源である公園グラウンド等やハートビューの体育館を活用して、多様な形態（遊び・集団づくりの要素）で取り組む。
- 2) 法人の根本理念である「障害のある人」から「固有のニーズ」のある人への転換を図る事を保障できる支援内容を創造する。（すべての法人関係者で、生活介護事業所のあり方を転換する。）

- ・メンバーの自己決定権（メンバーは成人であると言うあたりまえの事実）を尊重しながら、メンバーの「顔」「笑顔」、地域との「出会い」が見られる多様な活動（生活介護の視点と高齢化に対応する健康維持活動）をすすめる。
- ・地域の理解者、地域の学校・保育所、そして老人憩いの家である鶴亀苑・新町福寿苑と協力して、新しい活動を創造する。
- ・第2えるでを「多様な活動拠点」として位置づけ、生活介護事業全体の見直しを図る。
＜日中一次支援事業の充実と子ども食堂の拠点としての機能を＞
- ・「できる・できない。」という能力主義的な発想でなく、リサイクル・自主製品づくりを 個別のニーズ＜やりたくない！および、やりたいという気持ちを原点に＞を尊重しながら、「全員参加」＜形式的な全員ではなく、実質的な全員で＞で取り組む。
- ・「子ども食堂」をはじめとする地域貢献活動をメンバーの活動として位置づけ、メンバーへの意識を変革する。＜支えられる障がい者から、地域を支えるメンバーへ＞
- ・地域フェスタをはじめとする地域行事、学校行事に主体的に参画・参加し、法人としても「みんなのWA」等の組織化、施設を利用したミニ行事を企画する。
- ・行事については例年どうりという安易な設定を排し、毎回見直し、有効な行事となる努力を怠らない。

3）ホーム「空」がメンバーの「終の住処」となるように、ファミリー会と協議の上、医療との連携を根本的に見直し、ターミナルケア体制を確立の準備をはじめ、一定の体制を確立する。

- ・「終の住処」とは、どんな場をさすかのかを法人あげて議論をする。
＜人は匿名で亡くなる訳ではない。その人が生きた歴史の積み重ねを振り返る「儀式」を経て、葬送されるのである。＞
- ・事業所内において喀痰吸引指導看護師を中心に、各ホームで、喀痰吸引等の医療行為を実施できる職員を育成する。
- ・社会医療法人阪南中央病院との連携との連携を深め、訪問看護ステーション「やすらぎ」によるホーム東風・ホーム空への訪問看護・リハビリの体制を推進する
- ・行政に対して、介護事業所に対して認められている「看取り」や「看取り加算」を他団体とともに要求する運動を組織する。

4）法人事業所（生活介護、ホーム、相談機関、ヘルパーステーション）の有機的な連携を強め、諸課題の解決を図ります。

- ・メンバーの生活実態を再把握し、生活条件改善を図る。
- ・「メンバーの生活は一つ」を合言葉に、全事業所で支援に取り組む。
- ・法人の収支改善に引き続き取組み、経営の安定化により、支援は正規職員で取り組む方向性を堅持する。
- ・職員の定期異動により事業所間の連携を向上させ、若手職員の育成に努める。

5）定期的な広報活動に取り組み、後援会活動を通じてボランティアを組織します。

- ・「ねっとワーク通信」を定期発行する。＜年4回・12ページ構成＞
- ・メンバー・ボランティア向けのミニ通信を発行する。
- ・ボランティア活動保険等の加入とプランの見直し
- ・ホームページ更新担当者を固定し、生き生きとした情報を発信する。

他組織との連携

- ・法人事業同様に「ねっとまつばら」の活動への積極的な参加・参画を図る。
- ・フードバンクOSAKAの活動に参加し、社会貢献事業をづくり出す。
- ・関西障害者定期刊行物協会・大阪「生活の場・事業所」連絡会や「障大連」の活動に積極的に参加します。

理事会で承認された決算書は次の通りです。

事業活動計算書

第二号第一様式

（自平成31年4月1日 至令和2年3月31日）

（単位：円）

	勘定科目	当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)	備考
サービスの活動増減の部	収 就労支援事業収益	7,897,652	8,708,414	△810,762	
	益 障害福祉サービス等事業収益	300,362,018	271,851,625	28,510,393	
	経常経費寄附金収益	443,497	5,308,794	△4,865,297	
	サービス活動収益計(1)	308,703,167	285,868,833	22,834,334	
	費 人件費	221,288,452	194,169,228	27,119,224	
	事業費	27,012,272	23,185,833	3,826,439	
	事務費	26,016,143	26,605,959	△589,816	
	就労支援事業費用	7,919,803	8,743,252	△823,449	
	減価償却費	22,361,240	21,269,637	1,091,603	
	国庫補助金等特別積立金取崩額	△3,823,786	△4,300,949	477,163	
	徴収不能引当金繰入	100,000		100,000	
	サービス活動費用計(2)	300,874,124	269,672,960	31,201,164	
	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	7,829,043	16,195,873	△8,366,830	
サービスの活動外増減の部	収 借入金利息補助金収益	33,000	42,000	△9,000	
	益 受取利息配当金収益	112	75	37	
	その他のサービス活動外収益	3,270,272	2,943,517	326,755	
	サービス活動外収益計(4)	3,303,384	2,985,592	317,792	
	費 支払利息	1,698,057	1,194,120	503,937	
	その他のサービス活動外費用	2,169,126	2,009,591	159,535	
	サービス活動外費用計(5)	3,867,183	3,203,711	663,472	
	サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	△563,799	△218,119	△345,680	
	経常増減差額(7)=(3)+(6)	7,265,244	15,977,754	△8,712,510	
特別増減の部	収 施設整備等寄附金収益	5,916,600	1,296,000	4,620,600	
	益 固定資産受贈額	571,648	1	571,647	
	特別収益計(8)	6,488,248	1,296,001	5,192,247	
	費 基本金組入額	5,916,600	1,296,000	4,620,600	
	固定資産売却損・処分損	2,285,334		2,285,334	
	特別費用計(9)	8,201,934	1,296,000	6,905,934	
	特別増減差額(10)=(8)-(9)	△1,713,686	1	△1,713,687	
	当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	5,551,558	15,977,755	△10,426,197	
活動増減差額の増減の部	前期繰越活動増減差額(12)	86,084,813	73,107,058	12,977,755	
	当期未繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	91,636,371	89,084,813	2,551,558	
	基本金取崩額(14)	7,600,000		7,600,000	
	その他の積立金取崩額(15)				
	その他の積立金積立額(16)		3,000,000	△3,000,000	
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	99,236,371	86,084,813	13,151,558	

資金収支計算書

第一号第一様式

（自平成31年4月1日 至令和2年3月31日）

（単位：円）

	勘定科目	予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
事業活動による収支	収 就労支援事業収入	7,879,000	7,897,652	△18,652	
	入 障害福祉サービス等事業収入	298,453,000	300,362,018	△1,909,018	
	借入金利息補助金収入	33,000	33,000	0	
	経常経費寄附金収入	404,000	443,497	△39,497	
	受取利息配当金収入	0	112	△112	
	その他の収入	3,188,000	3,270,272	△82,272	
	事業活動収入計(1)	309,957,000	312,006,551	△2,049,551	
	支 人件費支出	218,834,000	218,817,217	16,783	
	事業費支出	26,712,000	27,012,272	△300,272	
	事務費支出	25,961,000	26,016,143	△55,143	
	就労支援事業支出	9,263,000	7,706,989	1,556,011	
	支払利息支出	1,694,000	1,698,057	△4,057	
	その他の支出	2,165,000	2,169,126	△4,126	
	事業活動支出計(2)	284,629,000	283,419,804	1,209,196	
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	25,328,000	28,586,747	△3,258,747	
施設整備等による収支	収 施設整備等寄附金収入	5,917,000	5,916,600	400	
	入 設備資金借入金収入	65,000,000	65,000,000	0	
	固定資産売却収入	5,000,000	5,000,000	0	
	施設整備等収入計(4)	75,917,000	75,916,600	400	
	支 設備資金借入金元金償還支出	7,261,000	7,269,695	△8,695	
	固定資産取得支出	75,791,000	75,792,981	△1,981	
	ファイナンス・リース債務の返済支出	1,524,000	1,522,800	1,200	
	施設整備等支出計(5)	84,576,000	84,585,476	△9,476	
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△8,659,000	△8,668,876	9,876	
その他の活動による収支	収 入				
	その他の活動収入計(7)	0	0	0	
	支 積立資産支出	4,574,000	1,595,360	2,978,640	
	その他の活動支出計(8)	4,574,000	1,595,360	2,978,640	
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△4,574,000	△1,595,360	△2,978,640	
	予備費支出(10)	0	0	0	
	当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	12,095,000	18,322,511	△6,227,511	
	前期末支払資金残高(12)	55,514,778	55,514,778	0	
	当期末支払資金残高(11)+(12)	67,609,778	73,837,289	△6,227,511	

決算報告の詳細は、法人のホームページをご覧ください。

後援会コ－サ－

後援会への入会ありがとうございます。

7月10日現在で、個人加入者が298名、団体加入が4件です。毎年更新となっていますので、未加入の方はぜひご入会ください。年会費は、個人が3,000円、団体が10,000円です。宜しくお願いします。

今年度の活動

今年度は、新型コロナウイルスの感染を防止するため、例年の行事活動が中止になったり、規模縮小をしての実施となったりする可能性があります。

1. ボランティア活動

① 7/23 えるで+第2 えるで交流の取り組み

これは、毎年7月に開催している近隣小学校の児童との交流である「バオバブと友だちのWA」がコロナの状況で中止となった代わりに取り組む活動です。毎年「バオバブと友だちのWA」にもたくさんの方のボランティアさんが参加していただいていますのでこの取り組みにもご参加ください。

② 9月の取り組み (未定)

毎年9月に、まつばらゆめニティーで実施している「バオバブとみんなのWA」が中止となり、それに代わる取り組みを行います。具体的には8月ごろに分りますが、これにも後援会がボランティアとして参加しと思っています。

③ 松原高校祭や中学校フェスタ

現時点では、未定です。もし、実施されれば例年通り後援会として出店を考えていますので、ボランティアとしての参加を宜しくお願いします。

④ バオバブとみんなのWA 2021

例年、3月に実施していますいわゆる「バオバブまつり」は、コロナの状況によってはどうなるか分かりませんが、基本的に実施の方向で、後援会として支援していきたいと思っています。

⑤ 第1 えるで、第2 えるでボランティア活動

現在、えるでの日常活動に常時10名のボランティアが参加しています。

地域の方、退職された方でメンバーさんと関わりたいなあ、趣味を生かしてメンバーさんと一緒に活動したいなあど考えておられる方、大募集です。気軽に、第一えるで、第二えるでにお寄りください。

日中一時支援事業への支援を

毎月の2回の土曜日、午前10時から午後2時まで、第2 えるでに於いていろいろなクッキングや季節に合った工作やゲームなどに取り組んでいます。ぜひ、メンバーさんへの支援をお願いします。

私は、メンバーさんの食事介助や移動介助の他に、月・木・金の午前中に、メンバーさんの知っている曲に合わせて手や腕、足を動かす音楽体操をしています。自分でリズム感を掴んだら、メンバーさん一人ひとりが自分に合った力を出しながら、楽しく体を動かしています。

また、毎月曜日の午後には、他のボランティアさんと、拍子打ちから始まる紙芝居をしています。メンバーさんのグッドタイミングな掛け声や特徴ある掛け声で盛り上がっています。7月からは、第一えるでのメンバーさんも参加し、一層の盛り上がりを見せています。

2, 広報活動

年4回、「バオバブネットワーク通信」の中に、後援会の入会状況や活動の取り組み、ボランティア募集などを紹介した「後援会ニュース」を掲載し、発行しています。今回で25号となります。

本年度の予算 各行事が中止となったと仮定した予算です！！

○収入	
・前年度繰越金	308,293円
・会費	900,000円(3,000×300名)
計	1,208,293円
○支出	
・振込み手数料	20,000円
・通信費	35,000円
	(通信費:10,000円、領収書切手代=25,000、)
・事務費	5,000円
	(カラー用紙、印刷用インク、ファイルなど)
・募金等	50,000円
	(ノーマライゼーション協会への募金10,000 松原ファミリーへの団体会員10,000旅行カンパ30,000)
・第2えるで活動費	10,000円(CD,DVD、書籍など)
・ボランティア保険	12,000円(600円/人×20人)
・後援会事務所賃貸料	80,000円(40,000円×12月)
・予備費	596,293円
計	1,208,293円

ボランティア活動 申し込みシート

※なまえ	※生年月日 年 月 日
※住 所 〒	
自宅／TEL	
携帯／TEL	
携帯アドレス	
PCアドレス	
※活動希望 (希望に○を)	
◎日常活動 (月曜日～金曜日)	◎日中一時支援 (隔週土曜日)
◎行事活動	
※希望時間帯 (年月日 時間)	
活動の動機 (なぜ、ボランティア活動をやってみようと思ったか)	
趣味、特技	
ボランティア活動の経験の有無 ある () ない	
不安や質問があれば、お気軽にお書きください。	

※は、ボランティア活動保険に加入するために必ずご記入ください。

Fax 072-332-0995

みんなで考えようコーサ=Nの20

津久井やまゆり事件から、4年目の7月26日を迎えます。被告の死刑判決確定後、おそらく多くの人びとの意識から風化していつてしまうことが懸念されています。

今、事実上のコロナ戒厳令状態にあるなか、事件の意味を問う講演会や集会やシンポジウム、などが開かれない状況についても拍車がかかると考えられます。

私たちは、このような活動そのものが「自主的な判断」も含めてされることについて、民主主義の危機感すら感じます。もう一度、原点に返り「事件」の背景思想(?)になってきた「優生思想」を直視し、安積遊歩さんの課題提起をもとに考えながら、併せて7・26に向けて行動提起をします。
(文責F)

優生思想とは「何でも1人でできなければならない」という考え

事件の犯人は「プロ野球選手になっていたらこの事件を起こさなかった」と言っているくらい、考えの浅い人だと思います。注目を浴びたいだけですよね。

彼の発言をいちいちマスコミに載せること自体が間違っています。2019年にニュージーランドでヘイトクライムが起きたとき、アーダーン首相は犯人の名前も主張もメディアに載せることを許しませんでした。日本もそうして欲しかったですし、犯人の考えを載せるマスコミが本当に嫌でした。彼の主張を取り上げることは、私たちにとってヘイトスピーチと同様なのです。

彼は自分がケアしていた人たちを「心失者」と言っていました。彼こそが「心失者」なのではないでしょうか。意思の有無を基準にしていますが、人は人の間にいるからこそ人間なのであって、そういうことを主張する犯人は、事件の前から関係性のなかで死刑にされていたのかもしれない。

私にとって優生思想とは「何でも一人でできなければならない」、「できる命は生れてきてよくて、できない命は生まれてこないほうがいい」、という考え方のことです。

彼は幼いときに「困ったら人に助けを求めてもいい」と大人たちから教わらなかった

のでしょうね。優生思想を終わらせるためには、いかに一人ひとりが人間として尊重されて育つかどうか重要です。私は宇宙(娘)を育てるときに、「何でも一人でやりなさい」とは一切言いませんでした。トイレットトレーニングもしなかったし、ご飯をテーブルについて食べることも強制しませんでした。でもそのおかげで、娘は誰かに助けを求めることをいいことだと思ってくれるようになりました。父母のことも名前と呼び、生まれながらに人はみんな対等なのだと、尊重されなければならないのだと、自然とみにつけてくれました。

生まれたての赤ちゃんは、世の中の言葉でいえば「無力」そのもので生まれてきます。

つまり、優生思想の中だけでは育ちません。人間が動物と異なる点は、無力な状態で生まれ、周囲に助けを求め、そしてその周囲に助けをあげる力があるということです。人間にはそういう素晴らしい本質があるのに、この社会では、生まれた瞬間に「男か女か」「障害があるかどうか」でランクもレベルもつけられ、「迷惑をかけちゃダメだ」、「お互いに助け合っちゃダメ」、という考えを刷り込まれていきます。育ちのなかで、私たちがいかに優生思想の中に置かれているかに気づくべきです。(中略)

死刑制度と出生前診断はつながっている

私は犯人の死刑を支持する人たちは、出生前診断も肯定するのではないかと思っています。優生思想の極みは死刑制度であり、出生前診断です。どちらも無知と思考停止に陥っているという点で共通しています。そして、死刑囚よりも、胎児の声はもっと聞こえません。

もちろん、女性の中絶の自由のために必死で闘ってきた人たちがいます。だから、社会に対して言いたいことは、女性の責任にばかりするなということです。出生前診断
重度訪問介護が平和をつくる

わたしは、「福祉とは平和の具体化」「平和は福祉の日常化」ということをずっと言ってきました。平和も福祉も一人ひとりのいのちを大事にすることが根本にあります。

ですから、入所施設は「福祉の現場」ではありません。施設とは、優生思想のあらわれだからです。施設に入れっぱなしにされることは、優生思想の犠牲者になるということです。私は人として施設があることを肯定できません。私にとって施設があるということはアウシュビッツを遠まわしに肯定しているのと同じことです。施設というのは、その人の意思を聞きません。似たような特徴の人を集め、一つの目的のために管理する場所なんて、究極を言えば軍隊と同じです。

だから私は、重度訪問介護で平和をつくりたいと思っています。一人ひとりの意思を大切にすることの、見えやすい形だからです。これまで隔離管理しなかった障害のある人との関係が、重度訪問介護を通して付き合うことによって、一人ひとりの意思を聞くようになる。障害者と介護者が互いに良い関係をつくろうという努力があれば、それは人間性を育む豊かなものになっ

断で女性

だけが当事者にされることは大間違いです。女性が出生前診断に追い込まれるまでに、この社会に助けがないのです。男社会と生産性至上主義の残酷な結果です。

(中略)

しかしこの事件が起きて、現実の凄まじさに気づきます。また、新しい出生前診断(NIPT)もでてきて、優生思想の逆風はどんどん強まっているかもしれません。

ていくでしょう。つまり重度訪問介護とは、平和を日常化するものです。

いまは教育の現場も平和ではありません。一人で何でもできることがいいことだとか、いい成績を取りなさいだとか、優生思想の奴隷にされるような教育ばかりです。どうしてこんなにたくさんの小学生・中学生が自殺するのでしょうか。また、不登校が多いということは、学校だけでは子どもの居場所としてふさわしくないということです。まず、いまの学校教育制度を完全に見直し、ホームスクーリングやフリースペースなどいくつか選択肢を用意すべきです。

教育の現場も福祉の現場も、能力で人間を分けている場合ではありません。いかに一人ひとりの命を大切に、一人ひとりの関係性を大切にするか、ということを考えなければなりません。だからこそ、インクルーシブ教育が大事です。たとえば、わたしが好きなドキュメンタリー映画『みんなの学校』では、地域の大人をたくさん学校に入れて、子どもと向き合える人をつくっていくということを実践しています。

(中略)



7.26 障害者大虐殺 4 年目の 追悼アクションのご案内

4年前の7月26日に、神奈川県相模原市にある障がい者施設で、19名もの人々が命を奪われました。今まで公表されることのなかった19名の方々の名前ですが、今年になり、美帆さん(19歳)の名前が公表されました。さらに今年、犯人に対する裁判の判決が確定しました。

私たちは、この事件を特殊な人物がおこした特別な事件だと考えていません。今の私たちが生きる社会の上にあり、私たちと同じように暮らす人物がおこした事件であると考えています。

死んでもいい命、奪われてもいい命、感染症や災害の被害による救命から後回しにされてもいい命などありません。
命を選別する社会は誰にとっても優しい社会ではありません。

判決が確定しても決してこの事件は終わりではない。
私たちはこの事件を許さず、忘れないために、そして19名の命と、この世界にあった人生を悼みながら、一人ひとりの多様な生命が尊重される社会をつくるために、追悼アクションを行います。

追悼の思いをともにしましょう。

日時：2020年7月26日(日)18:00 開催場所：大阪梅田ヨドバシカメラ周辺

18:00～ スタンディングとスピーチによる
アピールを行います。
※スピーチには手話通訳があります。
19:20～ スタンディングエリア付近を移動
20:00～ うめきた広場周辺で解散

※献花台を用意しますので、よろしければお花をご持参ください。
※プラカードやフェイクキャンドル、黒リボンを用意しています。お持ちの方もぜひご持参をお願いします。

《必ずご確認ください》

- ・参加の際には必ずマスクを着用してください。
- ・コロナウィルス感染予防の観点から約2m間隔をあけてのスタンディングにご協力ください。
- ・暑さや急な雨が予想されます。水分補給や雨具の用意をお願いいたします。

呼びかけ：7.26 追悼アクション有志
連絡先：prayforsagamihara726@gmail.com

編集後記

- バオバブネットワーク通信VOL25をお届けします。
通信VOL24の編集後記に、「2020年度は激変の予感とともに幕を開けました。」と予感めいた言葉で締めくくりましたが、本当にコロナ感染症という激震に今も晒されています。コロナ危機突破の支援金要請にご協力ありがとうございます。支援金要請開始以来、2ヶ月の間に目標金額を越えるご協力を頂きました。呼びかけ人を代表して、心から御礼申し上げます。バオバブ35周年を祝って頂いた様々な立場の方々から、メンバーの健康状態への御気遣いの「ことば」にも、救われた気持ちにもなれました。
- 7月10日現在、日中やホーム関係者は全て元気で「いつも通り生活」を送っています。もちろん、感染症対策のために地域との交流・イベント等中止・延期になっていきますが、日常通りの生活の動を維持してきました。それでも、メンバーさんのストレスは高まっています。8月・9月は、「自粛路線」から離れて、年間行事が目玉である「一泊旅行」は、予定通り実施したいと考えています。
- 4月以来のコロナ騒動の中で、心が傷つく事も多くありました。特に、相談機関「いこな」のみで繋がっている在宅のメンバーには、医療機関の対応に傷つき、「引きこもり」傾向が強まったメンバーも多くいます。発熱して「かかりつけ医」に駆け込んでも、診療拒否され、処方箋すらもらえないケースが何例もありました。市や保健所に連絡しても明確な返答もなく、「いこな」からの訪問・食料提供のみで一人で発熱に4日間も耐えてくれたメンバーもいました。発熱時の対応への疑問から、「人」に対する不信を増幅して、引きこもり傾向が顕著になっているメンバーに対して、寄り添いながら、「地域で生きつづけること」への信頼を回復させていきたいと思ひます。
- 7月26日、相模原事件から4年目を迎えます。コロナ感染症という激震の中、事件そのものが風化しはじめています。その結果、この事件の波及性を社会に訴える機会を逸した多くの課題を残すこととなり、コロナ感染症による医療崩壊を防ぐためにという理由で、命の選別が「トリアージ」という言葉に換えて、優生思想が公然と語られています。
- 7月26日、18:00に梅田ヨドバシカメラにて、追悼集会が予定通り開催されます。何ヶ月ぶりに、地下鉄に乗り集会に参加したいと考えています。私たちは、これからも障害のある人が一人の人間として尊重され、名前を隠されるようなことがないような社会の実現に向け、命の重さや尊さ、不要な命などなく、「人間の存在そのものに価値がある。」ことを訴え続け、二度と同じ過ちを繰り返させないことを強く訴え続けていきます。そして、

(文責F)

KSKQ (バオバブネットワーク通信VOL25) 2020年 7月 21日発行

定価100円

編集人 社会福祉法人バオバブ福祉会 編集責任者 房本 晃

連絡先 〒580-0044 松原市田井城6丁目328番地2

でんわ072-332-0987 FAX072-331-8200

発行人 関西障害者定期刊行物協会
〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4階

でんわ&FAX06-6763-3338

一九九一年九月三日

第三種郵便物承認

毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)

発行